

第 24 回 長崎都市経営戦略推進会議

平成 25 年 6 月 20 日 (木)

10 : 00 ~ 12 : 00

長崎商工会議所 2F 特別会議室

議 題 等	資 料
1. 議長挨拶 2. 議題等 <協議事項> (1) 第 7 回長崎サミットについて 3. 閉会	

○今後のスケジュール

◇推進会議

第 25 回推進会議 7 月 09 日 (火) 10:00~12:00

第 26 回推進会議 7 月 23 日 (火) 10:00~12:00

◇第 7 回長崎サミット 7 月 29 日 (月) 9:30~12:10

第 7 回長崎サミット（案）

1. 日 時
平成 25 年 7 月 29 日（月） 9：30～12：10 （ 160 分 ）
2. 会 場
ホテルニュー長崎
3. 内 容
 - ①経過報告と提議 （ 15 分、推進会議議長）
 - ②トップによる意見交換

{	125 分
	進行役 – 推進会議副議長(日本銀行長崎支店長)
 - ③報道機関質疑応答 （ 20 分 ）

報道公開について

県民・市民の皆さんへ、本プロジェクトの活動状況をより幅広く伝えること、そしてトップによる意見交換の時間を拡充させること等を目的に、報道公開する。
報道機関はサミット開催中、会場に在席する。

※参考

前回は、報告・提議 10 分、意見交換 100 分(報道非公開)、記者会見 40 分。

(注) 今後のスケジュール等

- 7月に、2回の推進会議を開催し、組成団体および関係団体との調整を踏まえ、内容を詰める。
- 本プロジェクトの活動者の裾野拡大、活動浸透を図ることを目的に、運営の工夫を行う。
 - ・陪席者の拡充（資金支援協議会会員、地域活性化に取り組む市民組織、長崎市以外の地域活性化活動組織等より） 等
- 会場設営の工夫をする。
- 広報の充実を図る。

【ご参考】

当日は長崎留学生支援コンソーシアム総会も開催予定（13:00～14:00）

長崎サミットへの提議（案）

長崎サミット

上田 恵三	長崎商工会議所会頭	中村 法道	長崎県知事
宮脇 雅俊	長崎経済同友会代表幹事	田上 富久	長崎市長
橋本 州史	長崎県経営者協会会長	片峰 茂	長崎大学学長
武藤 剛	長崎青年会議所理事長		

殿

長崎都市経営戦略推進会議
議長 里 隆 光

本プロジェクトは、2010年に「みんなでつくろう元気な長崎」をスローガンに、地域経済の衰退に歯止めをかけるべく設定した 2020 年の定量目標を目指して、産学官連携して推進活動に着手した。

活動開始後、旗印とした連携は相応に進み、個別テーマも課題解決に向けた動きが着々と進みつつある。また、新幹線西九州ルート諫早・長崎間の着工を始めとして、数々の大型プロジェクトが具体化するなど、当地域にとってフォローの風となりうる動きが出ている（別紙 1）。

一方では、諸経済指標は一部に好転の動きがみられるものの、経済基盤の持続的な底上げという面では未だ十分とはいえず、これからが正念場といえる。今こそ、これまでより強力な分担と連携を進め、持続的な指標の維持向上を目指すことが求められている。

当地域における経済環境の最近の動向を十分認識した上で、本プロジェクト第 2 ステージ（経済基盤づくり）の対策を徹底して講じ、2014 年 8 月から計画している第 3 ステージ（成果を示すステージ）へつなげていかなければならない（別紙 2）。

こうした認識のもと、以下を提議する。

1. 運営体制の一層の強化

① 定量目標達成に向けた補足指標での進捗確認と外貨獲得の拡充による経済基盤拡大策の加速を図る。

→ このことが長崎県提唱の県民所得の向上に寄与することにつながる。（別紙 3）
（長崎サミットプロジェクトの定量目標に同指標を加える）

② 上記達成を目指し、分担の一層の明確化を図る。

イ. 長崎サミット

— 年に 2 回、当面する最重要テーマを選択し、方向性と推進の分担を中心に意見交換し、具体的成果へ結びつける。

ロ. ワーキングチーム

— 重要なテーマにかかるワーキングチームを新設する（例：夜景観光推進等）。
且つ、チームの副座長・委員は関係団体、直接の関係事業者等から起用する。
重要テーマについて、当事者を交え具体化へ向けた活動を、分担等確認のうえ更に強化する。

2. 本日の長崎サミットにおいて意見交換等を願う事項

(1) 意見交換事項

現在、特に対応を強化すべき重要課題の具体化に向けた分担等の方策について (別紙4)

- 中小（中堅）企業の新分野進出等の支援
- 夜景観光の充実と対外発信の強化（環境整備と観光誘致活動強化）
- 物流体制の充実・強化（特に対外向け物流・集荷拡充）

(2) 確認事項

①主要施策毎の進捗と課題、当面の対応方針 (別紙5)

推進会議を中心に具体化へ向けて推進する方向性を確認して頂く。

②長崎サミットで提起された主要事項と進捗、対応状況 参考資料1

この1年間の長崎サミットで提起頂いた主要事業の進捗と対応状況を確認して頂く。

主な事例： 中小企業の新分野進出支援

夜景ウィークの設定

まちづくり（駅周辺、都市再生）の周知

③主要施策毎のアクションプラン（定量目標と分担等を含む） 参考資料2

ワーキングチームが中心となって個別設定した定量目標、そのための関係者の分担を確認して頂く。

主な事例：

3. 次回「第8回長崎サミット」の日程

平成26年2月3日（月）

当地域の経済環境にかかる最近の動向

【この6ヶ月間（第2ステージ第4ラウンド）の主な前進事例】

- ◇倉庫・宿泊対策など、客船建造体制の支援策の進捗
国際コンテナ航路の週2便化(増便)実現
- ◇「ながさき海洋・環境産業拠点特区」の指定獲得と認定に向けた協議会活動
- ◇民間金融機関の地域活性化ファンド創設と、産学官連携によるサミット関連事業支援
- ◇インバウンド促進のまちづくり(エリアマネジメント)の推進
- ◇総おもてなし運動の推進・定着(おそうじさるくの開始、観光案内の充実対策の進展等)
- ◇「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進の支援活動
- ◇コンベンション施設整備可能性調査完了を受けた具体的検討進捗
- ◇長崎かんぼこ王国、新商品・揚げかんぼこ「出島揚げ」の開発
- ◇長崎留学生支援コンソーシアム、長崎留学生支援センターの活動展開、法人化準備

➤ 多様な大型プロジェクトの進展

- ・九州新幹線西九州ルート諫早・長崎間着工
- ・長崎県庁の移転建て替え
- ・長崎駅周辺再開発（土地区画整理事業）
- ・長崎 MICE センターの設置検討
- ・県庁跡地の活用（集客拠点施設整備）
- ・長崎市庁舎建て替え
- ・JR 長崎本線連続立体交差事業
- ・出島表門橋架橋、出島復元計画
- ・長崎中央部・臨海地域の都市再生計画
- ・長崎市まちぶらプロジェクト

➤ 人口問題（人口減、高齢化進展、こども人口減）等、地方経済が抱える課題膨らむ。

- ・人口（12年10月末）長崎地域の総人口 652千人 前年比 2.6千人、0.4%減
高齢化率 25.1% 前年 24.2%
こども人口 85千人 前年比 1.2千人、1.3%減
- ・雇用（13年4月）有効求人倍率（季節調整値） 県 0.71倍 前年同期 0.62倍
ハローワーク長崎管内（実数） 0.65倍 0.56倍
ハローワーク諫早管内（実数） 0.80倍 0.75倍

➤ 一部経済指標に好転の動き

- ・ランタンフェスティバル13年 101万人、前年比 24万人増
- ・GWの人出(県内)13年 62.4万人、前年比 6.8万人増

・
・

➤ 周辺県内各地域における経済活性化活動

・
・
・

より一層の分担・連携の必要性と今後の方向

別紙 2

各団体等
 ・個別に企画・推進
 ・個別に提言等

それぞれ自立的に、特に立ち上がりは積極的に推進
 持続性、組織・運営にも課題
 どちらかと言えば、イベント、単発的

中長期的な基盤づくりが不十分

地域経済(指標)の
 衰退

取り巻く環境の多様化
 ・国際間・地域間・企業間
 等の競争激化

より差別化
 を強化

みんなであつくりろ
 元気な長崎

- ◎地域経済の立て直し
 ◎発想と行動の転換
 (イノベーション)
- ◎まず外貨導入を重点的に

地域、企業を取巻く環境
 一層の急激な変化
 グローバル競争の激烈化
 マクロ的な情勢変化(例:三菱重工の
 組織再編の影響)に対する情報収
 集・対応へ
 連携・分担不可欠

連携の強化
 ・問題意識の共有
 ・情報交換の深化
 ・機会あることのコミュニケーション

同一方向性の確認
 活動(行動)の連携

強力な「実現性」、「効果」、
 「持続性」の追求
 しっかりと中長期的な
 基盤づくり

・施策のスピーディーな具体化
 地域経済(指標)の維持・改善

PDCAの実践

さらに強力なPDCAの実践

相応に進み、一部効果も出てきている。

主な進捗事例

- ☆新幹線九州ルート認可・着工推進活動(12年8月着工)
- ☆人材育成、倉庫・宿泊対策等の客船建造体制の支援策進捗
- ☆「ながさき海洋・環境産業拠点特区」の指定推進(13年2月指定)
- ☆地域活性化ファンド創設とサミット関連事業支援
- ☆総おもてなし運動(多言語表示等観光案内充実、おそうじさく等)
- ☆教会群の世界遺産登録推進の支援活動強化
- ☆コンベンション施設整備実現に向けた具体的検討の進捗
- ☆長崎かんぽ王国、長崎おでん開発、揚げかんぽこの開発
- ☆長崎留学生支援コンソーシアム、長崎留学生支援センターの発足

分担して連携の強化
 仕組みづくり
 ・・・・必要であれば
 別途、強力な組織作りも

長崎サミットプロジェクト
 (今後の方向)

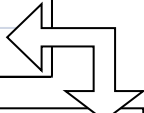
第1ステージ

第2ステージ

第3ステージ

掲げた定量目標と現状の参考指標

項目	当初	現状	2020年
基幹製造業			
基幹製造業本体(3社)の生産高 地元受注率10%ポイント引上げ 3社の地元発注額 受注量・額	08年) 5,160億円		5,160億円
観光			
観光消費額	08年)865億円	12年) 1,154億円 前年比5.2%増	1,300億円
観光客数	08年)556万人	12年) 595万人 前年比0.1%増	700万人
宿泊者数	08年)246万人	12年) 259万人 前年比2.3%増	350万人
外国人延べ宿泊者数		12年)13万人 前年比10.7%増	
コンベンション開催件数		12年)1,049件 前年比2.6%増	
コンベンション参加者数		12年)39万人 前年比16.4%増	
国際クルーズ客船寄港数		12年)72隻 前年比53隻増	
国際クルーズ客船乗客数		12年)8.1万人 前年比5.5万人増	
主要観光施設入場者数			
夜景観光 稲佐山展望台		11年度) 41万人	
交通機関		12年)	
有料道路利用台数 出島道路		12年度) 前年度比2.5%増	
イベント観客数			
ランタンフェスティバル		13年) 101万人 前年比24万人増	
帆船まつり		13年) 20.3万人、前年比1万人減	
長崎くんち		12年) 23万人、前年比2万人減	
水産			
練り製品販売・生産額	07年)60億円		120億円
長崎かんぼこ王国 会員数			
大学			
学生・教職員消費及び大学支出 学生数3000人、教職員300人増 留学生数	08年)587億円		632億円
地域内産出額	07年度)3.9兆円	10年)	
* 県内総生産		10年市町民経済計算未発表	


 県民所得の向上

【中小（中堅）企業の新分野進出等の支援】

〈選定理由〉

当地域では、事業所・企業の減少傾向が続き、地域経済の衰退の要因のひとつとなっている。こうした状況に歯止めをかけ、当地域の経済活性化につなげるには、新分野進出や創業、域外展開等の促進が大きな課題となっている。

国の新たな成長戦略においても、中小企業等の革新を掲げ、開業率引き上げ、成長分野への進出支援、海外展開の促進、地域資源の活用・創業支援、国内外フロンティアへの取組支援等を打ち出している。

幸い、当地においては、国が打ち出した成長分野、すなわち健康長寿、エネルギー・環境、地域資源（農林水産・加工品、外国人観光客誘致）等のポテンシャルは高い。

また、特に、エネルギー・環境分野では、ながさき海洋・環境産業拠点特区に指定されたほか、日本版 EMEC への指定を目指すなど、国の方向と軌を一にしている。

そこで、国の施策等を活用しつつ、中小・中堅企業の新分野進出（および創業）、事業展開等を促進する方策、その分担と連携について、意見交換を願いたい。

例)

- ・産業拠点特区の指定や日本版 EMEC 誘致を通じて、エネルギー関連事業等の新たな事業分野にかかる地場企業の新事業分野進出支援（技術開発、人材育成、等）
- ・基幹製造業の事業構造転換に対応した新事業分野進出

等々

【夜景観光の充実と対外発信の強化（環境整備と観光誘致活動強化）】

〈選定理由〉

九州新幹線西九州ルートが着工し開業まで9年となるなか、教会群の世界遺産登録の取組み、世界新三大夜景の認定、LCCの就航・増便等、観光振興面で追い風が吹いており、それらを活かして観光客の一層の増加を図るため、マーケット対策等の充実が必要である。

特に、世界新三大夜景については、観光客の増加につながっているが、その価値がまだ十分には伝わっておらず、生かし切れていない状況とみられ、夜景にかかる環境整備も課題となっている。

そこで、夜景観光にかかる環境整備、夜景の維持・拡充を如何に分担・連携して進めていくのか、また、世界新三大夜景に加え、教会群の世界遺産化などの追い風を活かした長崎観光の魅力の発信力を高めて集客につなげていくためにどのような分担・連携をしていくのか、意見交換を願いたい。

- ・ 夜景の活かし方、情報発信力の強化
- ・ 視点場等の整備、夜景自体の維持・拡充策などの環境整備の促進
- ・ テーマ、ターゲットの明確化による効果的な誘客促進
- ・ 他地域などと連携した面としてのアピール

【物流体制の充実・強化（特に対外向け物流集荷拡充）】

〈選定理由〉

長崎港の国際コンテナ航路に韓国・シノコー社が航路開設し、高麗海運と併せて週 2 便体制が実現した。物流の脆弱さが地域経済発展の阻害要因のひとつとなっている当地域にとって、今回の航路の充実は外国貿易の促進、地域経済の活性化に寄与するものである。

しかし、当地域では輸入貨物があっても輸出貨物が少なく、それが減便につながった経緯があることから、航路を維持し更に増便して利便性・サービスを高めるには、輸出貨物の確保が不可欠となっている。

そこで、輸出貨物の利用促進を進めるため、如何に集荷を図っていくのか、意見交換願いたい。

- ・ 博多、伊万里、等の県外港に流出している輸出貨物の長崎港利用推進
- ・ 輸出貨物の確保、長崎港ポートセールスの強化・充実

主要施策毎の進捗と課題、当面の対応方針

《 総合的（分野横断的）な課題 》

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進

- 進捗状況 — ・県世界遺産登録推進県民会議の発足と参加協力
 ・民間の活動進展（JR・バス・電車・タクシー等交通関係、十八銀などの応援活動等）
 ・「ながさきクリスマス」等への参加など登録活動支援
- 課題 — 地域全体・全県的な盛り上げ
- 対応・分担等 — ・登録推進活動及び啓発・・・県
 ・活動支援と啓発・・・（市、経済団体、企業等）

中小企業の新分野進出支援

- 進捗状況 — 新分野進出等の支援ファンド新設、ほか
- 課題 — 企業・事業所数の減少、中小企業の新分野進出の支援強化
- 対応・分担等 — ・新規参入・事業拡大等の民活掘り起こし・・・金融機関等、業界団体等
 ・情報収集・提供・・・・・・・・・・県（市、経済団体、金融機関等）
 ・特区関連の海洋・エネルギーを始めとした成長分野での中小企業の事業化・起業促進等、新分野進出支援についてもWT組成を含め検討

経済基盤強化へのまちづくり（まちなか全体のエリアマネジメント推進）

- 進捗状況 — まちなか全体のエリアマネジメント（ランドデザインに沿った着実な推進）の勉強会開催
- 課題 — ・まちづくりの具体的活動
 ・民活の掘り起こし
- 対応・分担等 — まちなか全体のエリアマネジメント（ランドデザインに沿った着実な推進）の強化について、関連の組織（委員会・懇話会等）と早急に協議

国際都市長崎へ向けた産学官一体での国際交流拡充

- 進捗状況 — 長崎日蘭協会の設立（1月）、長崎市・ライデン市の市民友好都市提携、などの交流拡大
- 課題 — 国際交流都市長崎の再生に向けた、交流活動の拡充、留学生・市民等の交流の場の拡充による交流人口拡大等経済活性化の推進
- 対応・分担等 — ・出島の復元・活用と日蘭交流体制の強化・・・市（経済団体、県、大学等）
 ・国際交流の広場づくり・・・・・・・・大学、県、市、経済団体等
 ・提携大学の拡充推進・・・・・・・・大学

《 基幹製造業 》

総合特区（ながさき海洋・環境産業拠点特区）の認定への協議会活動

- 進捗状況 — 行政、造船業、経済団体等による協議会で区域計画の認定に向け協議中
- 課題 — 早期認定獲得と、特区を活用した取組の具体化
- 対応・分担等 — 「国と地方の協議会」への協力・・・県、市（推進会議、関係企業・団体、金融機関）

高付加価値船、大型船舶の建造拡大に向けての環境整備の促進

- 進捗状況 — 順次情報提供中（倉庫、宿泊、駐車場等）
 国際コンテナ航路の週2便化実現
- 課題 — 個別案件毎の具体的進捗

- 対応・分担等－ ・情報収集・提供・・・県、市（関係企業）
 ・個別案件への対応・・・県、市、関係企業
 ・集荷活動の強化、・ポートセールス 13 年度実施（日本海事センターとの連携・協力）
 ・市・長崎港活性化センター（業界・経済団体、県等）

基幹製造業の事業再編に対応した取組み支援

- 進捗状況 － 三菱重工業・日立製作所の発電システム分野の統合新会社 14 年1月発足へ
 課 題 － 情報収集、連携協議
 対応・分担等－ ・情報収集・提供・・・県、市（経済団体）
 ・個別案件への対応・・・県、市、関係団体

基幹製造業の動きに合わせた事業誘致対策

- 進捗状況 － 造船関連県外調達企業と地場企業との提携・部品受注等を推進中
 課 題 － ・誘致・提携企業の発掘等情報収集及び誘致・提携等推進、用地・インセンティブ等誘致の条件整備
 ・建設業等からの新たな事業参入
 対応・分担等－ ・情報収集および誘致につながる活動・・・県、市、等
 ・情報提供、サポート・・・経済団体等、大学、金融機関等
 ・建設業等からの事業参入促進・・・県、経済団体、業界団体

地場企業の競争力強化への支援

- 進捗状況 － 造船関連技術者育成支援事業、12 年度開始。
 課 題 － 人材育成、設備投資・雇用維持、県外企業との事業連携等への支援
 対応・分担等－ 支援策の検討・推進・・・県（市、業界団体等）

《 観 光 》

総おもてなし運動の徹底推進

- 進捗状況 － 県総おもてなし運動推進会議、長崎市観光ネットワーク推進協議会等による活動
 長崎地域のおもてなし運動（アダプトプログラム、おそうじさるく（九州電力等））
 課 題 － おもてなし運動の拡がり不足
 対応・分担等－ ・枠組み作りと啓発・・・・・・・・行政、経済団体
 ・総おもてなし運動の実践・推進・・・商工会議所（経済同友会等経済団体、企業等）

MICE(コンベンション)の施設整備と誘致推進

- 進捗状況 － 「長崎MICEセンター整備可能性調査」結果を受けた事業の精査・見極め
 課 題 － ・施設用地の確保、事業主体・事業者決定など
 ・MICE誘致活動の推進
 対応・分担等－ ・施設整備の推進 用地の確保、事業主体・スキーム等の構築・・・市
 ・ファイナンス・・・経済団体、金融機関等
 ・誘致・支援活動・・・・・・・・市（経済団体等、コンベンション協会、大学等）
 ・開催支援体制構築（サプライヤー育成）・・・・市（経済団体等）

観光資源の磨きと活用（世界新三大夜景の活用・維持拡充など）

- 進捗状況 — ・市が稲佐山ロープウェイ、展望台、レストラン等整備
・民間企業によるバスツアー実施
・夜景ウィーク実現への活動展開（街の光パワーアップ作戦（仮）の実施）
- 課題 — ・域内外への発信
・稲佐山以外の視点場整備、民間企業の夜景活用商品開発
・夜景の維持（斜面地の人口・世帯減等による光の減少歯止めと増加）
- 対応・分担等 — ・域外への発信……県、市、企業
・視点場整備……市（県）
・夜景観光商品開発……企業、関連業界等
・夜景維持対策……経済団体、市、等
・夜景ウィークの実施……商工会議所青年部（経済団体、）

インバウンド対策推進へのまちづくり

- 進捗状況 — ・「インバウンド対策の充実にかかる提言」を県庁跡地懇話会へ説明
・WT 再編による体制強化（マーケット対策WT、観光資源の再構築WT）
・関西経済界との連携（大阪商工会議所等との関係強化）
- 課題 — ・関西圏等の観光客誘致活動、関西圏経済界等との連携強化、情報発信強化のための体制作り
・クルーズ船観光客の長崎滞在・観光促進の具体的仕掛け、商品開発
・関西圏とのアクセス改善、増強等
- 対応・分担等 — ・2次交通整備含めたまちづくりや観光案内板等の整備推進…県、市等
・言語バリアフリー対応等おもてなし充実やビジネス商品開発…関係業界・企業
・関西圏等との連携強化……県・市、経済団体・業界等
・関西圏等のマーケット調査……経済団体・業界等
・関西・長崎間の空路増強（LCC 増便等）…商工会議所（及び7団体）

《 水 産 》

水産練り製品の域外展開の推進

- 進捗状況 — 業界を中心に順調に活動展開、新商品「出島揚げ」も開発
- 課題 — 水産練り製品の県外展開の強化・推進、練り製品以外の分野発掘
- 対応・分担等 — ・販路拡大……業界団体等
・販路拡大への補助金等支援…県、市等

☆練り製品に続く水産業振興にかかる戦略の検討

- 進捗状況 — 水産人材育成・海洋サイバネティクス事業（長崎大学）進捗等
- 課題 — ・水産人材育成の強化
・練り製品以外の水産物の域外展開推進
・養殖事業等の拡充・推進
・消費拡大や水産業の重要性再認識につなげる魚食推進
- 対応・分担等 — ・水産人材育成…大学（県、業界団体等）
・水産品の域外展開……関係業界、県、等
・養殖事業等の推進…関係業界、県、市、等
・魚食推進……市（県、経済団体等）

《 大 学 》

☆留学生支援センター事業の推進と留学生支援体制の充実

進捗状況 — 産学官による長崎留学生支援コンソーシアムを2月1日設立、その下に「長崎留学生支援センター」を設置し、活動開始。

課 題 — 長崎留学生支援センター事業の推進と拡大

対応・分担等 — ・インターンシップの推進・・・経済団体及び大学（行政）
・支援センターの事業支援、財政支援・・・大学（県、市、経済団体等）
・国際交流の広場づくり・・・大学、県、市、経済団体等
・提携大学の拡充推進・・・大学

産学官連携の推進

進捗状況 — 長崎県中小企業団体中央会と連携した取り組みを協議

課 題 — 産学コーディネーターの育成・確保と活用

対応・分担等 — ・産学コーディネーターの育成・確保・・・業界団体等
・産学コーディネーターの活用・・・企業、大学
・新規事業参入の可能性研究（技術面）・・・大学、企業

長崎大学の新学部設置の推進支援

進捗状況 — グローバル人材育成に向けた新学部（仮称：多文化社会学部）14年度開設準備

課 題 — 新学部の認可申請（13年6月）と早期認可獲得および新学部の広報等

対応・分担等 — ・新学部設置の地域貢献・期待等に関するサミット枠での要望書提出・・・経済団体、県、市
・広報支援・・・経済団体、等

国際都市長崎へ向けた産学官一体での活動

課 題 — 国際交流都市長崎の再生に向けた、留学生・市民等の交流の場の拡充

対応・分担等 — ・国際交流の広場づくり・・・大学、県、市、経済団体等
・提携大学の拡充推進・・・大学

《 そ の 他 》

人口減少下での労働力人口の確保による生産活動維持

課 題 — 地域経済における少子高齢化・生産年齢人口の減少傾向に対応した、高齢者および女性の就業率引き上げ（全国的に低い就業割合）

対応・分担等 — 推進会議として今後、検討

《 推進体制 》

☆活動の層の拡がり

進捗状況 — ・若手経済人の特別委員会を設置し、提言とりまとめ
・商工会議所青年部で「コンベンション、夜景観光」に関する提言策定中

課 題 — 若手の活動参加の促進

対応・分担等 — ・若手経済人の提言の活用
・JC、商工会議所青年部、同女性会、青年協会等との分担連携
・商工会議所青年部の「コンベンション、夜景観光」の提言の活用

活動の地域の拡がり

- 進捗状況 — 佐世保地区の活性化活動との連携・支援
- 課題 — 具体的な連携活動の展開、情報収集・発信
- 対応・分担等 — ・情報収集・発信……推進会議、経済団体、県等
・連携支援活動……推進会議、経済団体、県等

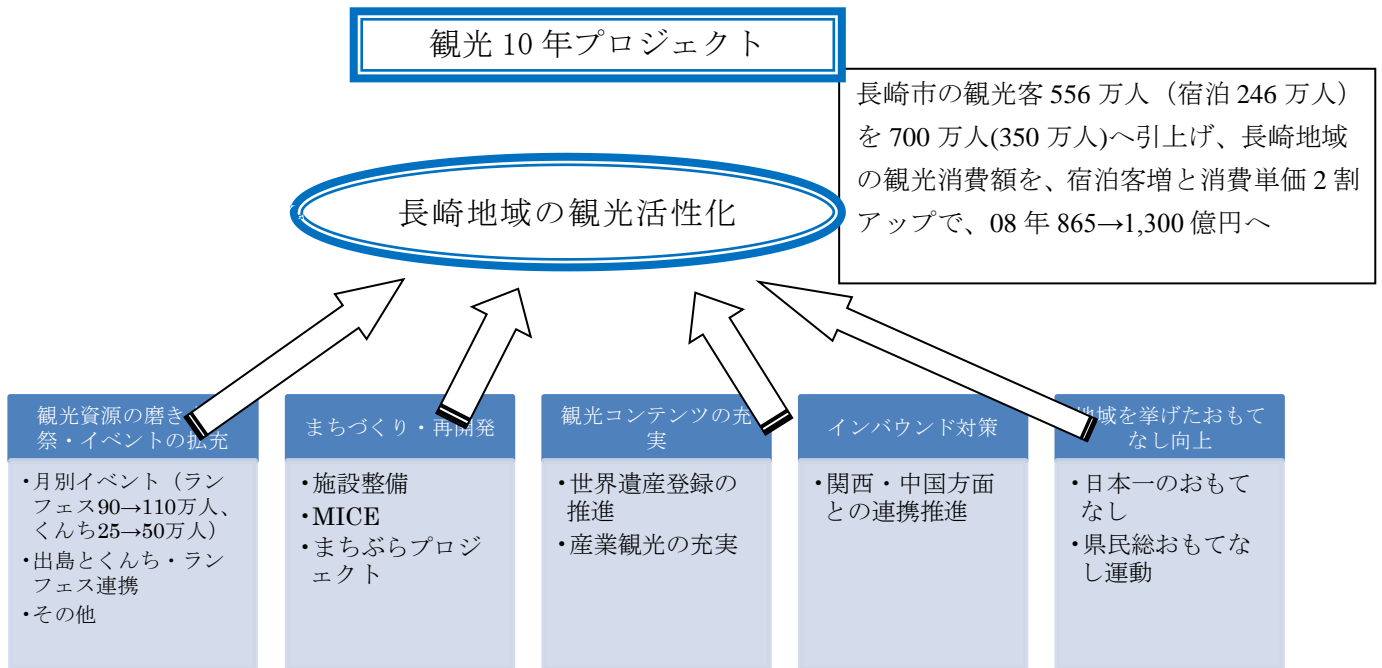
中央の賢人アドバイザー組織作り

- 進捗状況 — 中央でご活躍の長崎ゆかりの賢人リストアップ
- 課題 — 具体的なメンバー選定と組織づくり
- 対応・分担等 — 人選・依頼および設置・運営……推進会議

資金支援協議会の拡充

- 進捗状況 — 12年10月、会員45社で発足、予算規模2千万円
- 課題 — 会員の増強と会費拡大による推進会議への支援強化
- 対応・分担等 — 会員増強……経済団体

観光分野の参考



長崎市の観光事業の見込み

観光客数

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	万人	2016年
594.5	580	600	620	630	15年/11年 伸び率 6.0%増を目指す	650

要因

1. 都市観光の振興								
(1) まちあるき 関連	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	15/11年	2016年	
①ながさきさるく(通・学)	2.7	4.8	5	5.3	5.5	103.7%	さるく10周年	
(2) 夜景観光、宿泊滞在型観光 関連	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度			
②稲佐山展望台利用者	41.3	50	50	50	50	21.1%		
(参考) ロープウェイ(②に実質包含)	15	15.5	15	15	15	0.0%		
③やすらぎ伊王島利用者	20.2	18.1	25	30	30	48.5%	日帰り含む	
④ランタンフェスティバル観覧者	77	94	92	90	92	19.5%		
小計	138.5	162.1	167	170	172	24.2%		
(3) 主要観光施設、イベント 関連	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年			
⑤グラバー園	96.9	93.4	93.4	96.4	98.4	1.5%		
⑥出島	39.5	39.4	44	46	50	26.6%		
⑦軍艦島(端島見学施設)	9.3	9.4	10	10	10	7.5%		
⑧亀山社中記念館	17.1	12.7	12.7	12.7	12.7	-25.7%		
⑨長崎帆船まつり(11年は震災のため、12年を基礎とする)	4.6	21.3	18	19	20	-6.1%		
小計	184.1	176.2	178.1	184.1	191.1	3.8%		
2. MICEの振興								
⑩MICE参加者数	33.7	37	38	39	40	18.7%		
計	359	380.1	388.1	398.4	408.6	13.8%		
3. その他、期待される要素								
(1) 世界遺産登録(教会群)による「新たな観光素材」の誕生(13年度)								
(2) 出島表門橋架橋(16年度)								
(3) 長崎しおかぜ総文祭開催(13年度)、長崎がんばんらば国体・長崎かんばらば大会開催(14年度)								